

留 学 報 告 書

記入日:2016年7月28日

所属学部／研究科・学科／専攻	法学部 法律学科 国際関係法コース
留学先国	イギリス
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: マンチェスター大学 現地言語: University of Manchester
留学期間	2015年9月～2016年6月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	政治学部 <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2016年6月15日
明治大学卒業予定年	2017年3月
留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:9月下旬～1月 2学期:2月上旬～6月上旬 3学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	38590人
創立年	2004年

留学費用項目	現地通貨(£)	円	備考
授業料	0	0円	交換留学のため、授業料負担なし
宿舍費	5200	980000円	学生寮1学年間約£5200
食費	1500	300000円	月約3万円
図書費	90	17000円	テキスト3冊
学用品費	10	2000円	ノート数冊、その他文房具
教養娯楽費	1000	200000円	月約2万円
被服費	100	19000円	
医療費	0	0円	
保険費	530	100000円	形態:海外旅行保険(東京海上日動火災保険)
渡航旅費	370	70000円	
雑費	70	13000円	家具、日用品、交通費など
その他	530	100000円	休暇中の旅行費、イベント参加費など
その他		円	
その他		円	
合計	9400	1531000円	

渡航関連

渡航経路: 成田国際空港→アタテュルク国際空港→マンチェスター空港

渡航費用

チケットの種類 往復チケット

往路 _____

復路 _____

合計 _____ 70000 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

ターキッシュエアラインズ

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

大学の学生寮(フラット)

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数4人部屋(シェアハウス形式))

3)住居を探した方法:

大学の学生寮紹介サイト、パンフレット

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

イギリス人2人とブルガリア人1人とフラットをシェアし、一緒に料理を作ったり、パーティーをするなど、楽しく共同生活を送りました。フラットメイトとのコミュニケーションは良い共同生活を送る上で、非常に重要です。

現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった

利用した:

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

困ったことや分からないことがあったときは、学生相談室や留学生事務室に相談に行きました。

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

主に日本大使館からの情報を参考にしました。無事、犯罪には巻き込まれることなく留学を終えることができました。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

大学、寮ともにインターネットの接続は安定していました。しかし、私の寮には wifi は完備されていなかったため、基本的には有線でパソコンを通してインターネットを利用していました。

5)現地での資金調達はどうに行いましたか?(例:現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

クレジットカードの他、キャッシュパスポートを用いて、日本にいる家族から必要に応じて送金してもらっていました。現地で口座を開設することも可能で、寮費の分割払いなどを利用するには開設が必要です。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

ほとんどの物は現地でも調達できますが、現地ではアジアの食品、調味料等は種類も少なく、高価なので日本から持っていくほうが良い場合があります。また、傘と刃物は日本の物のほうが圧倒的に質が良いのでお勧めです。

卒業後の進路について

1) 進路

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

マイナビ、リクナビ、Career Forum Net、BAL JOB など

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

株式会社シミック: 留学で得た経験、技能、知識を活かし、海外での国際共同治験や、国内・外資系企業の医薬品開発の支援に携わりたいと思い、入社を決めました。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例: 留学中の就職活動に向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
留学中から業界・企業の研究と自己分析をしておくことで帰国後にスムーズに就活を始められます。また海外でもキャリアフォーラムなど留学生向けの選考会や企業説明会の機会があるため、積極的に参加することをお勧めします。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
120 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 14 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Business English for International Students	留学生向けビジネス英語
科目設置学部・研究科	University Language Centre
履修期間	秋学期(9月~1月)
単位数	10
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 180 分が 1 回
担当教授	
授業内容	実践的なビジネス英語の学習のほか、会議、電話対応、企画、プレゼンテーション、面接など具体的なビジネス場面でのコミュニケーションを練習しました。
試験・課題など	期末試験(リスニング、リーディング、ライティング、プレゼンテーションの4つで構成)
感想を自由記入	ビジネスの場面での丁寧な英語の表現、コミュニケーション方法、欧米でのビジネスマナーなど、今後の人生で役立てたい知識を習得することができました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
English Language in Use	実用英語
科目設置学部・研究科	University language Centre
履修期間	秋学期(9月~1月)
単位数	10
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 180 分が1回
担当教授	Dave Ellis
授業内容	学術英語の学習。アカデミックライティングや速読の練習のほか、プレゼンテーションのコツや、実用的なイディオム、フレーズなどについて学習しました。
試験・課題など	エッセイ、プレゼンテーション、期末試験(リスニング、ライティング、リーディング)
感想を自由記入	ネイティブな表現方法や、論文等のフォーマルな文章の書き方などを身につけることができ、自身の英語の質を向上させることができました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Making Sense of Politics	政治学理解
科目設置学部・研究科	School of Social Science
履修期間	秋学期(9月~1月)

単位数	20
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式、チュートリアル形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に講義 120 分が 1 回と、チュートリアル 60 分が 1 回
担当教授	Marta Cantijoch
授業内容	近時の政治問題や社会問題を実際のデータを用いて研究することを通して、政治学における量的研究・質的研究といった研究手法を学習しました。
試験・課題など	中間エッセイ(2000 語)、期末エッセイ(2500 語)
感想を自由記入	実際のデータを用いることで、現在の政治問題や社会現象についての理解が深まったほか、研究に欠かせない統計ソフトを使いこなすことができるようになりました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to Business Anthropology	ビジネス文化人類学入門
科目設置学部・研究科	School of Social Science
履修期間	秋学期(9 月～1 月)
単位数	20
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式、チュートリアル形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に講義 120 分が 1 回、チュートリアル 60 分が1回
担当教授	Katherine Smith
授業内容	現代のビジネスに潜む文化的側面や、逆にビジネスから生みだされた新しい文化について分析し、いかにビジネス面で「文化」を有効に活用していくかを学習しました。
試験・課題など	チュートリアル課題、中間レポート(800 語)、期末試験(2 時間)
感想を自由記入	国・地域によって異なる多様な文化について研究し、グローバル化の進む現代ビジネスでの「文化」のあり方について理解を深めることができました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to Comparative Politics	比較政治学入門
科目設置学部・研究科	School of Social Science
履修期間	春学期(2 月～6 月)
単位数	20
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式、チュートリアル形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に講義 120 分が 1 回、チュートリアル 60 分が 1 回
担当教授	Daniel Fitzpatrick, Shogo Suzuki
授業内容	比較政治学の基礎となる学説、政治形態の種類・特徴等について学習した後、欧米や中国の政治と、政治形態の異なる国の政治とを比較研究しました。
試験・課題など	中間エッセイ(1500 語)、期末試験(2 時間)
感想を自由記入	あらゆる国家の政治形態について学習し、主に民主主義、共産主義、社会主義等を比較研究することで、国際政治について理解を深めました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Politics of the Global Economy	国際政治経済学
科目設置学部・研究科	School of Social Science
履修期間	春学期(2 月～6 月)
単位数	20
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式、チュートリアル形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に講義 120 分が 1 回、チュートリアル 60 分が1回
担当教授	Tom Houseman
授業内容	政治学・経済学の枠組みにとらわれず、双方の視点から紛争、貧困、発展、差別、教育、不況といった近時の政治問題や経済問題を分析しました。
試験・課題など	中間エッセイ(2000 語)、期末試験(2 時間)

感想を自由記入	政治学と経済学を組み合わせた新しい研究方法を用いることで、問題点を柔軟に分析し、その解決策や今後の展望を考えることができました。
---------	--

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Work, Organisation and Society	労働、組織、社会
科目設置学部・研究科	School of Social Science
履修期間	春学期(2月~6月)
単位数	20
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式、チュートリアル形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に講義 120分が1回、チュートリアル 60分が1回
担当教授	Nick Thoburn
授業内容	産業革命から現代までの「労働」の変化を主に研究し、それを基に現代の労働や組織、社会のあり方について考察しました。
試験・課題など	中間エッセイ(1500語)、グループプレゼンテーション、期末試験(2時間)
感想を自由記入	近代化と共に変化を遂げてきた「労働」について理解を深めることで、現代のグローバル社会における労働問題について大いに興味を持ちました。



留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2014年 1月～3月	協定・交換留学制度、協定校についてリサーチ 短期留学(ケンブリッジ法学研修)の準備 3月にMLP 春季英会話講座に参加
4月～7月	短期留学の準備
8月～9月	8月から9月まで短期留学に参加 マンチェスター大学を見学(短期留学中の休日に) 帰国後、IELTSを受験
10月～12月	10月から交換留学書類選考 12月に面接選考 IELTSを再度受験
2015年 1月～3月	1月にマンチェスター大学交換留学が決定 出願準備開始 三度IELTS受験へ向けてスピーキング、ライティングの練習
4月～7月	4月IELTS受験 4月からマンチェスター大学出願、手続き 6月からビザ申請、7月に取得
8月～9月	8月、MLP 夏季英会話講座に参加 9月中旬に留学出発 9月末からガイダンス、ウェルカムウィークに参加
10月～12月	1学期授業開始 ハローウィン、クリスマスイベントなどに参加 12月末から冬期休暇
2016年 1月～3月	1月中旬から1学期再開、期末考査開始 2月から2学期開始 3月末からイースター休暇
4月～7月	4月中旬から2学期再開 5月中旬から期末考査開始 6月中旬にプログラム終了、帰国
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	私は、将来は世界の人々に関わることのできる仕事がしたいという目標を持ち、そのためにも学生のうちに留学を経て、海外での経験を積みたいと考え、留学への挑戦を決意しました。また、大学生という最後の学生時代に何か1つ大きなことを成し遂げたいという気持ちも、動機となりました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	語学力の向上は欠かせないものであると思います。もちろん、現地で生活していく中で、十分に英語の上達は図れますが、やはり最初にどれだけの英語力を持っているかで、受講できる講義や体験できることの幅で大いに差が出てきます。充実した留学生活を送るには、留学前にできる限り英語力を高めておくと思いいます。また、日本の文化、特にサブカルチャーは近年、欧米でも注目を集めているので、これについても知っておくと話の幅が広がり、お勧めです。
この留学先を選んだ理由	マンチェスター大学は、国際政治や開発学、発展途上国・新興国の研究の分野で高い評判を得ており、国際政治を学びたい私にとって留学先として最適であると考え、志望しました。また、二学年にケンブリッジ大学法学研修に参加したこともあり、イギリスの大学の制度、研究・講義方式が自分に適しているように感じたことも動機となりました。
大学・学生の雰囲気	大学のキャンパスは中心街から少し離れたところにあり、広大な敷地内に多くの学部棟で構成されていました。学期の変わり目や長期休暇前、クリスマスなどの行事の際には、様々なイベントが催され、多くの学生で賑わっていました。学生には他国からの留学生も多く、欧米だけでなくアジア、中東、アフリカなどあらゆる地域から来た学生と交流する機会がありました。
寮の雰囲気	私は、それぞれが個室に住み、キッチンとリビングを4人でシェアする形式の学生寮に住んでいました。家具や調理器具、一部の食材はフラットメイトとシェアし、一緒に料理を作ったり、パーティーをするなど楽しい寮生活を過ごしました。学期の始まりと終わりや、年間行事の際には、寮全体でイベントが行われ、盛り上がっていました。
交友関係	自分の寮のフラットメイトやチュートリアルの授業で知り合った学生、日本語学部で学んでいる学生、イベントを通して知り合った学生など幅広く交流しました。最初はなかなか英会話に慣れず、コミュニケーションもぎこちないものでしたが、あきらめずに積極的に交流を図ることで、多くの友人を得ることができました。英語を上達させ、充実した留学生活を送るには、自分から進んでコミュニケーションをしていくことが大切です。
困ったこと、大変だったこと	生活面で困ったことは、特にありませんでした。学習面では、中間課題や期末考査が想像以上にレベルが高く、苦戦を強いられました。日々のこまめな復習が大切であると思います。また、私は現地で就職活動を行いました。ロンドンなどで就活セミナーや企業の合同説明会、選考会が行われるため、就活が全くできないようなことはありません。しかし、やはり日本国内と比べてその機会は少ないので、自分から積極的に動くことが大切です。
学習内容・勉強について	私は政治学部に所属し、国際政治を中心に勉強していました。授業は、講義とチュートリアルという少人数制の授業の2つで構成されており、チュートリアルでは生徒同士や講師との間で、講義の内容を基に議論が行われました。最初はあまりついていけないものではありませんでしたが、チュートリアルの前に講義の内容や自分の考えを整理し、自発的に発言することで、次第に議論の輪に入ることができたほか、英語も上達し、講義内容をより理解できるようになりました。
課題・試験について	課題の量は授業によって異なりましたが、中には毎週多くの課題がでるものや、難しいものもありました。イギリスの授業はリーディングによる予習と復習が非常に重要で、リーディング課題を十分にこなしていたか否かで、授業の理解度やエッセイなどの課題の出来が大きく変わってきます。授業前と授業後の日々のこまめな予習復習は、課題や期末考査に取り組むにあたって非常に重要です。
大学外の活動について	日本人留学生と日本語学部の学生と日本に興味のある学生が参加している、「日本人サークル」と、様々な国々から来た留学生による「国際交流サークル」に所属していました。様々な文化圏出身の学生と交流することで、多様な文化を柔軟に理解できるようになった他、自国の文化を見つめなおす良い機会となりました。
留学を志す人へ	留学では自発的に行動することが何よりも重要であると思います。自分から学び、自分から交流し、自分から楽しもうとする姿勢が、留学を有意義なものにすると思います。一生に一度かもしれない貴重な経験なので、ぜひ悔いのない留学生活を送ってほしいと思います。

1週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業	授業	授業	家事	授業	家事	友人と外出、イベント参加など
					午後の授業の予習		
午後	今日の授業の復習	今日の授業の復習	今日の授業の復習	音楽学部主催のランチタイムコンサート	授業	今週の授業の復習	外出など
			課題など		授業	課題など	
夕刻	明日の授業の予習	明日の授業の予習	家事	明日の授業の予習	今日の授業の復習	来週の授業の予習	外出など
夜			友人と夕食など		夕食など	フラットメイトと交流	明日の授業の予習